

生物多様性センター年報

平成 24 年度

平成 25 年 6 月

環境省自然環境局 生物多様性センター

## 【 目 次 】

1. 生物多様性センターの概況
2. 入館者数
3. 情報提供
4. 成果物利用承認等件数
5. 標本収蔵点数
6. 図書資料収蔵冊数
7. 現存植生図（縮尺 2 万 5 千分の 1）整備状況
8. 自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）構成機関
9. モニタリングサイト 1000 設置状況
10. 平成 24 年度 JICA 研修受入状況等
11. 平成 24 年度公表成果物一覧

## 1. 生物多様性センターの概況

### ○設立の背景

地球上の生物は、約 40 億年に及ぶ進化の過程で多様に分化し、生息場所に応じた相互の関係を築きながら、地球の生命体を形づくっています。このような多様な生物の世界を「生物多様性」といいます。生物多様性は、生態系のバランスを維持するうえで重要であるばかりでなく、私たち人間の生活にも計り知れない恵みをもたらしてくれます。

しかし近年人間活動による生物の生息地の破壊や乱獲などのために、地球上の生物多様性は急速に失われつつあります。わが国でも自然環境の変化とともに、長い年月をかけて生み出された多彩でユニークな生物たちによる多様性が危機に追い込まれています。

そこで、生物多様性の保全とその持続可能な利用に世界全体で取り組むことを目的として、1993年に「生物の多様性に関する条約(生物多様性条約)」が発効し、わが国の基本方針を1995年に「生物多様性国家戦略」として決定しました。

生物多様性センターは、この国家戦略を受けて、わが国の生物多様性の保全を積極的に推進し、世界の生物多様性の保全に貢献するための中核的拠点として平成10年6月に設立されました。

### ○業務概要

生物多様性センターでは、「調査」「資料収集」「情報提供」「国際協力」等の業務を行っています。

生物多様性センターから発信されるわが国の自然環境、生物多様性に関する情報は、国や自治体などの保全施策の策定や環境アセスメントの実施などさまざまな分野で役立てられ、わが国の生物多様性の保全に寄与します。

### ○施設概要

敷地面積 11,378 m<sup>2</sup>

施設名	構造	延べ面積
本館	鉄筋コンクリート造地上2階地下1階建	4,147.09 m <sup>2</sup>
ユーティリティ棟	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造平屋建	129.6 m <sup>2</sup>

### ○職員数

正職員 10名

事務補佐員 3名

技術専門員 6名

派遣職員 1名 (平成25年3月31日現在)

○組織

多岐にわたる生物多様性に関する調査や情報収集・整備などを限られた職員で行っています。

- センター長**
- 管理科** 総務、会計、情報機器の管理及び施設の維持管理
- 総括企画官** センターの事務の総合調整
- 保全科** 各種施策における技術的指針の作成、野生生物関連業務 等
- 調査科** 自然環境保全基礎調査等の実施
- 生態系監視科** モニタリングサイトの設置・監視に係る調整等
- 情報システム企画官** 生物多様性情報の収集・管理等の企画立案
- 情報システム科** 生物多様性情報の整備・運営等及び GIS の管理
- 専門調査官(植物担当)** 植物に係る自然環境保全基礎調査等の実施・分析
- 専門調査官(動物担当)** 動物に係る自然環境保全基礎調査等の実施・分析
- 専門調査官(生態系監視担当)** 重要生態系及びモニタリングサイトに関する専門的事項
- 専門調査官(海洋域担当)** 海洋生物・海洋域の環境調査研究等に関する専門的事項
- 専門調査官(調査連携担当)** 国内外の関係機関等との調査連携等に関する専門的事項  
(震災委員会) 東日本大震災により影響を受けた自然環境のモニタリング等

組 織	定 員	実際の体制	
		職員実員	期間業務職員等
センター長	1	1	
管理科	科長 1	科長 1	事務補佐員 3
総括企画官	1	1	
保全科	科長 1	主査 1	
調査科	科長 1	主査 1/科員 1	技術専門員 2
生態系監視科	科長 1	科長 1/主査 1	技術専門員 2/派遣職員 1
情報システム企画官	1	1	
情報システム科	科長 1	科長 1	技術専門員 2
専門調査官(植物担当)	1	欠	
専門調査官(動物担当)	1	併任(欠員)	
専門調査官(生態系監視担当)	1	併任(欠員)	
専門調査官(海洋域担当)	1	併任(欠員)	
専門調査官(調査連携担当)	1	併任(欠員)	

平成 25 年 3 月 31 日現在

※この他に、自然環境計画課の生物多様性国際企画官がセンターを併任

○予算

生物多様性センターでは、センター設立以前から続く調査や、東日本大震災による自然環境の変化状況把握のためのモニタリング調査など、国、自治体、研究機関などの様々な分野で役立てられる調査等を行っています。

予 算 事 項 名	平成24年度予算額 (千円)
生物多様性センター維持運営費	67,849
自然環境保全基礎調査費	220,900
地球規模生物多様性モニタリング推進事業費	437,232
地球規模生物多様性情報システム整備推進費	94,721
野生鳥獣情報整備事業費	29,559
三陸復興国立公園再編成等推進事業費	100,146
合 計	950,407

○施設使用電力量

H24	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量	25,561	17,263	13,730	9,758	10,720	7,759	9,029	26,589	36,518	40,912	35,057	29,198	262,094
余剰売払電力量	108	96	60	84	84	282	270		24		60	216	1,020

単位:kWh

2. 入館者数

毎年、15,000人程度の入館者数があります。富士山が世界文化遺産に登録されたことから、更なる入館者が見込まれます。

H24	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	1,191	1,550	1,065	1,481	3,015	1,094	1,465	1,078	701	644	824	885	14,993
図書資料閲覧室利用者 (うち県外在住者)	1 (0)	2 (2)	4 (0)	5 (0)	8 (7)	1 (1)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (8)	11 (7)	51 (33)

(参考) 年度別入館者数

年度	入館者数	年度	入館者数
H10	10,328	H17	15,023
H11	14,708	H18	19,964
H12	14,718	H19	15,493
H13	15,234	H20	16,522
H14	13,727	H21	17,991
H15	14,205	H22	17,563
H16	15,154	H23	17,268

### 3. 情報提供

生物多様性センターでは、わが国の植生、動植物の分布、河川・湖沼、干潟、サンゴ礁などについて基礎的な調査やモニタリングを実施しており、その成果を下記ウェブサイトで情報提供しています。

- 生物多様性情報システム（J-IBIS：Japan Integrated Biodiversity Information System）では、自然環境保全基礎調査の成果、絶滅危惧種に関する情報をはじめ、生物多様性や自然環境に関するデータを提供しています。（<http://www.biodic.go.jp/J-IBIS.html>）
- 生物多様性情報クリアリングハウスメカニズム（CHM）は、多数の団体・個人が所有している生物多様性に係る多数の情報の所在を横断的に検索・把握し、互いに持っている情報の交換・流通を促進していくためのシステムです。（<http://www.biodic.go.jp/chm/index.html>）
- インターネット自然研究所（It-Lab）では、全国の国立公園や野生生物の画像など、自然環境学習の教材としても利用できる情報を提供しています。（<http://www.sizenken.biodic.go.jp/>）
- 自然環境情報 GIS 提供システムでは、自然環境保全基礎調査によって得られた成果を GIS 化したものや、国立公園・国指定鳥獣保護区の区域・区分線の GIS データを提供しています。（<http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html>）
- 東北地方太平洋沿岸地域自然環境情報は、東北地方太平洋沿岸地域において行われた生物多様性、自然環境等に関する調査・研究の情報を共有するためのポータルサイトです。（<http://www.biodic.go.jp/Tohoku Portal/>）
- 鳥類標識調査では、鳥類標識調査結果（回収記録データ）をもとに、鳥の渡りの記録を GIS データとして提供しています。（<http://www.biodic.go.jp/banding/index.html>）
- いきものみっけは、市民参加型の生物調査であり、全国からの報告状況を取りまとめることにより、季節の移り変わりや地球温暖化による生物分布の移動・拡大などをとらえること、またそれらを通じて市民の生物多様性や地球温暖化への関心を高めることを目的としたシステムです。（<http://www.mikke.go.jp/>）
- モニタリングサイト 1000 では、全国約 1,000 カ所のモニタリングサイトで長期にわたり継続して行われている調査の成果を提供しています。（<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>）

#### ○ウェブサイトアクセス数

平成24年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
TopPage	13,558	16,020	15,566	15,789	16,462	14,889	16,331	35,537	18,813	34,698	39,702	51,888	289,253
J-IBIS	227,100	392,583	352,909	395,163	573,791	591,057	410,607	597,544	440,386	717,390	712,795	554,268	5,965,593
CHM	680	853	858	837	710	720	779	1,458	1,444	2,456	1,516	1,642	13,953
It-Lab	27,257	30,440	34,772	30,984	28,146	32,211	34,280	37,150	36,549	37,997	33,383	37,232	400,401

各略称の解説

平成25年3月31日現在

TopPage: 生物多様性センターウェブサイトのトップページアクセス数

J-IBIS: 生物多様性情報システムのアクセス数(CHMへのアクセス数を除く)

CHM: 生物多様性情報クリアリングハウスメカニズムのトップページアクセス数

It-Lab: インターネット自然研究所のトップページアクセス数

○インターネット自然研究所ライブカメラアクセス状況

インターネット自然研究所ライブカメラでは、全国各地に設置されたライブカメラを通じて、国立公園のすぐれた自然の風景や野生生物の最新画像を見ることが出来ます。

カメラの画像は日中約 1 時間ごとに記録され、データベースとして保存されている過去の画像を見ることが出来ます。

ライブカメラ名	設置年度	平成24年度アクセス数
知床半島・羅臼の山々	H14	426,434
澗沸湖と斜里岳	H24	87,388
美幌峠から見た屈斜路湖	H24	43,658
摩周湖第一展望台	H23	200,073
厚岸湖・別寒辺牛湿原の動物達	H14	62,747
釧路のシマフクロウ	H14	61,575
釧路湿原のタンチョウ	H14	345,018
サロベツ湿原と利尻山	H24	24,537
サロベツ原野	H14	202,951
クッチャロ湖のハクチョウ	H14	204,910
大雪山旭岳	H24	139,403
支笏湖と周辺の山々	H14	447,476
洞爺湖温泉から見た洞爺湖	H14	228,682
小湊海岸のハクチョウ	H14	137,599
発荷峠から見た十和田湖	H14	450,801
浄土ヶ浜	H24	112,433
三陸海岸宮古のウミネコ繁殖地	H14	68,206
伊豆沼のガンカモ類	H14	157,324
羽黒町から見た月山遠望	H14	185,468
裏磐梯レンゲ沼と磐梯山	H14	508,295
尾瀬沼	H14	1,660,358
奥日光湯ノ湖	H14	705,344
草津温泉・西の河原公園	H16	311,779
高谷池と火打山	H21	139,689
箱根・大涌谷	H14	797,715
富士山 7合目から見た山中湖方面	H21	309,739
富士北麓から見た富士山	H16	238,442
富士北麓からみた富士山2	H24	105,216
田貫湖畔から見た富士山	H14	1,165,597
南伊豆・弓ヶ浜	H14	710,786
北アルプス 立山	H14	198,483
立山三山	H21	295,350
上高地から見た穂高	H14	231,818

ライブカメラ名	設置年度	平成24年度アクセス数
上高地清水川のイワナ	H14	57,215
乗鞍高原からの乗鞍岳	H14	631,407
白山ブナオ山の動物たち	H14	46,288
片野鴨池のカモ	H14	25,178
三方湖の水鳥	H24	7,147
琵琶湖の水鳥	H14	156,381
志摩半島横山から見た英虞湾	H14	119,606
串本海中公園(海中景観)	H14	232,421
紀州加太から見た紀淡海峡	H14	330,775
竹野海中公園	H14	95,092
蒜山高原から見た蒜山三座	H21	131,189
大山鏡ヶ成から見た烏ヶ山	H14	455,445
大山情報館から見た大山	H21	91,319
米子水鳥公園のコハクチョウ	H14	170,764
鷲羽山から見た瀬戸内海	H14	193,808
五色台	H14	129,379
来島海峡	H14	242,758
ツシマヤマネコ	H14	71,019
長者原から見た三俣山	H21	153,706
南阿蘇からの阿蘇根子岳	H14	244,575
五島列島・大瀬崎	H21	63,839
えびの高原から見た霧島連山	H14	935,419
出水平野のツル	H14	658,104
屋久島の山々	H14	673,188
口永良部島・永迫牧場と屋久島	H22	47,539
やんばるの照葉樹林	H14	134,751
漫湖の干潟とマングローブ	H24	57,807
西表島のマングローブ	H14	109,281
イリオモテヤマネコ	H14	49,447
石垣島 玉取崎	H21	75,011
石垣島 川平湾	H21	100,077
竹富島 西栈橋	H21	207,809

平成25年3月31日現在

4. 成果物利用承認等件数

生物多様性センターで行っている様々な調査によって得られた成果はウェブサイトで公表していますが、一般には公開していない情報（盗掘の恐れのある希少種の詳細位置情報など）が一部あります。そのようなデータについて、行政施策や学術研究に不可欠である場合には利用を認めています。

	利用承認		複製頒布承認	複製承認	提供承認
	乙種保護情報	未公開一般情報			
H24	14	25	10		
H23	10	28	0		
H22	7	12		1	0
H21	0	0		2	6
H20	0	0		0	7

平成25年3月31日現在

## 5. 標本収蔵点数

生物多様性センターでは、トキなど希少野生動植物をはじめとする重要な動植物標本を保存し、普及啓発や調査研究等に役立てています。平成25年3月末現在で約65,000点の標本がありますが、9割弱が昆虫類となっています。

収蔵されている標本は下記URLから検索することができます。

[http://www.biodic.go.jp/center/hyouhon/HP\\_top.html](http://www.biodic.go.jp/center/hyouhon/HP_top.html)

	科	種	点数
哺乳類	21	34	101
鳥類	33	72	259
爬虫類・両生類	5	6	20
昆虫類	196	2,722	57,301
昆虫以外の無脊椎動物	5	7	16
陸産・淡水産貝類	1	1	2
維管束植物	208	1,979	7,170
合計	469	4,821	64,869

平成25年3月31日現在

## 6. 図書資料収蔵冊数

生物多様性センターでは、自然環境保全基礎調査をはじめとする各種報告書や自然環境や生物多様性等に関する図書を収蔵しています。収蔵されている図書は下記URLから検索することができます。

<http://www.biodic.go.jp/cgi-db/gen/book.sr>

図書は生物多様性センター図書資料室で閲覧できます（貸出しやコピーサービスは行っていません。また、一部公開していない図書・資料があります）。

分類	冊数
一般図書	6,896
電子資料	173
報告書	12,771
レッドデータブック	179
洋書	4,169
合計	24,188

分類	タイトル
逐次刊行物	116

平成25年3月31日現在



## 7. 現存植生図（縮尺2万5千分の1）整備状況

現存植生図はわが国の自然環境を示す唯一の面的な資料で、わが国の生物多様性に関する基礎的な情報となっています。植生図は国土計画・地域開発等のための自然診断図として、保全及び開発のマスタープラン作成に不可欠な資料となっていて、国土全体の64%の整備が終わっています。作成済みの植生図は下記URLからダウンロードすることができます。

<http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html>

ブロックコード	ブロック名	整備済み														未整備	整備率	全体
		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	合計			
01	北海道	24	35	16	85	21	11	23	31	41	40	37	43	27	434	566	43.4%	1,000
02	東北	82	48	23	40	0	17	14	0	28	19	33	0	23	327	437	42.8%	764
03	関東	42	40	35	15	0	15	0	0	36	31	24	21	0	259	104	71.3%	363
04	北陸	23	86	0	20	24	15	29	15	0	20	0	27	17	276	53	83.9%	329
05	中部	53	21	18	19	18	0	13	15	68	19	28	24	24	320	135	70.3%	455
06	近畿	22	54	11	61	18	11	13	44	2	39	39	29	25	368	23	94.1%	391
07	中国四国	46	28	36	69	17	0	28	30	24	53	38	26	29	424	235	64.3%	659
08	九州沖縄	118	63	31	50	21	13	23	44	75	97	30	42	38	645	133	82.9%	778
合計		410	375	170	359	119	82	143	179	274	318	229	212	183	3,053	1,686	64.4%	4,739

平成25年3月31日現在

## 8. 自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）構成機関

自然系調査研究機関連絡会議（通称NORNAC(ノルナック)：Network of Organizations for Research on Nature Conservation)は、国や地方自治体の自然系（自然環境保全、野生動植物保全の分野等）の調査研究を行っている機関が、相互の情報交換、情報共有を促進し、ネットワークの強化を図り、科学的情報に基づく自然保護施策の推進に寄与することを目的として平成10年11月に発足しました。

平成25年3月末現在、38団体で構成されています。

機関名	機関名
環境省生物多様性センター〔事務局〕	独立行政法人国立環境研究所
北海道総合研究機構環境科学研究センター	岩手県環境保健研究センター
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	群馬県立ぐんま昆虫の森
群馬県立自然史博物館	埼玉県環境科学国際センター
埼玉県立自然の博物館	千葉県立中央博物館
千葉県生物多様性センター	神奈川県自然環境保全センター
横浜市環境科学研究所	石川県白山自然保護センター
石川県のと海洋ふれあいセンター	石川県立自然史資料館
福井県自然保護センター	福井県海浜自然センター
山梨県環境科学研究所	長野県環境保全研究所
静岡県環境衛生科学研究所	愛知県環境調査センター
名古屋市環境科学研究所	名古屋市なごや生物多様性センター
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	大阪府環境農林水産総合研究所
兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立森林動物研究センター
鳥取県衛生環境研究所	島根県立宍道湖自然館ゴビウス
島根県立三瓶自然館サヒメル	岡山県自然保護センター
山口県環境保健センター	香川県環境保健研究センター
愛媛県立衛生環境研究所	福岡県保健環境研究所
福岡市保健環境研究所	宮崎県総合博物館

平成25年3月31日現在 38団体

## 9. モニタリングサイト 1000 設置状況

モニタリングサイト 1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）は、全国の様々なタイプの生態系について、約 1,000 地点で継続して調査を行い、生態系の指標となる生物種の個体数の変化等のデータを収集し、生物多様性保全施策に必要な情報などを提供するものです。

分野		調査サイト	主要調査項目	サイト数(※)	調査主体	
陸域	高山帯		①物理環境調査(気温、地温) ②植生調査(植生、ハイマツ節間成長、開花フェノロジー) ③昆虫調査(チョウ類、地表徘徊性甲虫)	5	研究者	
	森林・草原	コアサイト (毎年調査)	①植生概況調査 ②每木調査 ③落葉落枝調査 ④地表徘徊性甲虫類調査 ⑤陸生鳥類調査	20	研究者	
		準コアサイト (5年毎に調査)	①植生概況調査 ②每木調査 ③陸生鳥類調査	28	研究者	
		陸生鳥類サイト (5年毎に調査)	①植生概況調査 ②陸生鳥類調査	422	市民調査員	
	里地	コアサイト	①人為的インパクト調査 ②草本植物調査 ③水環境調査 ④指標動物調査(6項目)	18	市民調査員	
		一般サイト	コアサイトの9調査中から1調査以上	175	市民調査員	
陸水域	湖沼 湿原		①植生概況調査 ②プランクトン調査	11	研究者	
		ガンカモ類サイト	①湖沼概況調査 ②ガンカモ類調査	80	市民調査員	
海域	沿岸・浅海域	砂浜	ウミガメサイト ①海浜概況調査 ②ウミガメ産卵上陸状況調査	41	市民調査員	
		磯		①底生生物調査	6	研究者
		干潟		①底生生物調査 等	8	研究者
			シギ・チドリ類サイト	①干潟概況調査 ②シギ・チドリ調査	138	市民調査員
		アマモ場		①海草調査 等	6	研究者
		藻場		①海藻調査 等	6	研究者
		サンゴ礁		①物理環境調査(底質、底質中懸濁物含有量) ②生物生息把握(サンゴ被度、オニヒトデ調査等)	24	研究者
海域	島嶼のうち 小島嶼	海鳥サイト ①植生概況調査 ②全生息鳥種調査 ③対象種調査	30	研究者		
合 計				1018		

※暫定のサイトを含むため、サイト数は暫定値

平成25年3月31日現在

## 10. 平成 24 年度 JICA 研修受入状況等

JICA（独立行政法人国際協力機構）が実施する自然環境保全や生物多様性に関する研修 9 コース、49 名の研修員を受け入れました。特に「生物多様性情報システム研修」は生物多様性センターが主体となって実施している研修で、生物多様性センター設立の平成 10 年度から毎年実施しており、これまで 48 ヶ国 142 名の研修員を受け入れています。

研修名	受入期間	国名	人数
インド・シッキム州生物多様性保全・森林管理プロジェクト 森林局行政官研修	4 月 20 日	インド	6
地域における湿地の生物多様性の保全と持続的利用研修	5 月 23 日～5 月 24 日	フィリピン、タイ、ベトナム、ウガンダ、マレーシア、アルバニア	7
ベトナム NDBS プロジェクト 国家生物多様性保全施策運営・組織連携研修	5 月 27 日	ベトナム	8
生物多様性情報システム研修	8 月 20 日～22 日 (全体の研修期間は 8 月 6 日～10 月 4 日)	アルゼンチン、中国、ホンジュラス、ミャンマー、パプア・ニューギニア、南アフリカ、ベトナム	8
ベトナム NDBS プロジェクト 生物多様性保全研修/生物多様性データベース保守・管理研修	8 月 27 日	ベトナム	5
アルゼンチン標本管理研修	10 月 26 日	アルゼンチン	5
GIS・リモートセンシングを利用した生物多様性保全のための野生動物保護管理計画	11 月 2 日	カメルーン、インド、パラグアイ、ベトナム	5
参加型アプローチによる森林・流域保全研修	11 月 5 日	中国、エチオピア、マラウイ、ミャンマー	7
ブラジル ジャラポン地域生態系・コリドープロジェクト・生態系保全研修	11 月 29 日	ブラジル	3

JICA 研修以外では、コスタリカ生物多様性研究所（Instituto Nacional de Biodiversidad (INBio)）代表及びコスタリカ日本大使の来訪がありました。

研修名	受入期間	国名	人数
コスタリカ生物多様性研究所代表・コスタリカ日本大使館大使	10 月 24 日	コスタリカ	3

11. 平成 24 年度公表成果物一覧

調査の名称	報告書・成果物の名称	報告書・成果物の閲覧可能場所
平成24年度自然環境保全基礎調査 植生調査	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図精度管理業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 北海道ブロック	
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 東北ブロック	
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 北陸ブロック	
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 中部ブロック	
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 近畿ブロック	
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 中国四国ブロック	
	平成24年度自然環境保全基礎調査植生調査 植生図作成業務報告書 九州沖縄ブロック	
平成24年度自然環境保全基礎調査 沿岸域変化状況把握調査業務	平成24年度自然環境保全基礎調査沿岸域 変化状況把握調査業務	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度自然環境保全基礎調査 総合とりまとめ業務	平成24年度自然環境保全基礎調査(第7回) 総合とりまとめ業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査に係る情報収集等 業務	平成24年度自然環境保全基礎調査巨樹・巨 木林調査に係る情報収集等業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査に係るGISデータ作 成業務	平成24年度自然環境保全基礎調査巨樹・巨 木林調査に係るGISデータ作成業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度「いきものみつけ」事務局 運営業務	平成24年度「いきものみつけ」事務局運営業 務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度地球規模生物多様性モニ タリング推進業務	平成24年度地球規模生物多様性モニタリング 推進業務(国際会合等)報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
	平成24年度東・東南アジア生物多様性情報イ ンシアティブ業務(CITES掲載種分類学能力 構築)報告書	
	平成24年度東・東南アジア生物多様性情報イ ンシアティブ業務(運営等)報告書	
	平成24年度東・東南アジア生物多様性情報イ ンシアティブ業務(淡水・汽水性魚類に関する 分類学能力構築等)報告書	

調査の名称	報告書・成果物の名称	報告書・成果物の閲覧可能場所
平成24年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業	平成24年度 モニタリングサイト1000 高山帯調査報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室 生物多様性センターホームページ
	平成24年度 モニタリングサイト1000 森林・草原調査報告書	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 里地調査報告書	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 ウミガメ調査報告書	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 陸水域調査報告書	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 サンゴ礁調査報告書	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 磯・干潟・アマモ場・藻場調査報告書	生物多様性センターホームページ
	平成24年度 モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類春期調査速報	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類秋期調査速報	
	平成24年度 モニタリングサイト1000 ガンカモ類調査業務報告書	
平成24年度 モニタリングサイト1000 海鳥調査報告書		
平成24年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務	平成24年度東北地方太平洋沿岸地域自然状況等把握業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度ガンカモ類の生息調査報告書作成等業務	第43回ガンカモ類の生息調査報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室 生物多様性センターホームページ
平成24年度鳥類標識調査委託業務	2011年鳥類標識調査報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室 生物多様性センターホームページ
平成24年度哺乳類等生物情報収集・提供システム運用体制等検討業務	平成24年度哺乳類等生物情報収集・提供システム運用体制等検討業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室
平成24年度哺乳類等生物情報収集・提供システムインターフェイス・デザイン等作成業務	平成24年度哺乳類等生物情報収集・提供システムインターフェイス・デザイン等作成業務報告書	生物多様性センター図書資料閲覧室